ライフライン体験記

―２００８年５月、前里光秀との出会い―

『ライフライン体験記
―２００８年５月、前里光秀との出会い―』

① 自己紹介
② セッション開始
③ 通訳と交信
④ 何も見えない
⑤ 体外離脱と意識体分割
⑥ 見えない理由
⑦ 脳の工事
⑧ 近くの拡大と信念の崩壊
⑨ 宇宙人との交信
⑩ 時間と空間を解放する
⑪ ビジョンとその見方
⑫ 誰でもビジョンは見える
⑬ フォーカス１１９とイチローの意識
⑭ ガイドに応える
⑮ アセンションへの役割
⑯ 今を生きる
⑰ 宇宙旅行
⑱ 新年領域の圧縮とビジョンの意味
⑲ 宇宙から来た医師団
⑳ 約束

① 自己紹介

２００８年５月１７日から２２日までの５泊６日で、モンロー研究所の公式プログラム『ライフライン』に行ってきました。そこで僕が体験した衝撃的な出来事を書いていきたいと思います。

僕は２００７年９月にモンロー研究所の公式プログラム入門編にあたる『ゲートウェイ・ヴォエッジ』に参加してから、いくつかのプログラムを受講してきました。

ヘミシンクではこれまで体外離脱の経験は何度もあるのですが、ビジョンというものを見たことがなく、他の人の奇跡的な体験を聞いて喜んでいるだけでした。セミナーでは、毎回「過去世が見えた」とか「ガイドに会えた」といった体験が多く報告されます。

僕自身も毎回何かビジョンが見えないかと期待してセミナーに参加をしていましたが、ライフライン前まではまったく何も見ることができないままでした。そしていつの間にか、ビジョンを見ることは半ば諦め素晴らしい人たちとの出会いを期待する場となっていました。

日本でのプログラムは熱海にある『あたみ百万石』で開催されます。参加者が２５人で、僕の部屋は４人部屋でした。入口で受け付けをする時に部屋割りを見て驚きました。同じ部屋に「前里光秀」と書いてあったからです。

前里さん（以下ミツさん）は沖縄出身の方で、２００７年５月のアクアヴィジョン・アカデミー主催『ガイドとの邂逅セミナー』に参加し、爆発的覚醒をしたことで有名でした。セミナー初日にモンロー研究所を設立した故ロバート・モンローが肉眼と間違えるほどの鮮明さ現れ、次の日には見知らぬ非物質の存在から脳の工事をされました。

そして覚醒が始まったのです。

その時はまだメールでしか話したことがありませんでした。沖縄は僕が大好きな場所だったのでその話を添えてメールをしたところ、快くお返事をいただきました。その丁寧な文章に優しい人柄が表れ、「ああこの人と一緒にセミナー受けてみたいなぁ」と思ったのを覚えています。

覚醒をする人としない人、ミツさんと僕には「決定的に違う何か」があるはずだと思い、その「何か」を知りたかったからです。部屋に着くとまだ誰も来ていなかったのでルーフバルコニーへ出て景色を眺めたりしていました。そしてしばらくすると後の３人が到着しました。

アキラさん、ミツさん、ヒデさんです。３人とも日本人対象モンロー研究所ツアーのゲートウェイ・ヴォエッジ９期生ということで再会を楽しんでいましたが、僕は１人だけ８期生だったので挨拶がわりに自己紹介をしました。部屋は布団２人とベッド２人の配置で、僕はミツさんの後にヒョコヒョコと付いて行き一緒のベッドルームになりました。

そこで僕はヘミシンクでビジョンを見たことがない話をしました。

すると即答で

「今回必ず見ますよ」

と言われたのでなぜ分かるのかと聞くと、「顔の横に『見る』って書いてありますから」と言われました。ミツさんは必要な時に相手の考えていることや未来のこと、その他の情報が映像や文字で出ます。

この時、驚いた僕は顔を手で触ってしまいました。

② セッション開始

その後ブリーフィングルームで参加者全員の顔合わせがありました。トレーナーにはモンロー研究所設立当初からの経験豊富なカレン、通訳に坂本政道さんなどがいらっしゃいました。そこでミツさんが次のような体験をしました。セミナーの概要を聞いている時に、僕のガイドが現れました。

町奉行所の警察官が１０人くらいを引き連れ「御用だ御用だ！」と言いながら、そして砂煙を立てながらミツさんのところに駆け寄ったのです。そしてがっちりと握手をさせられました。

その時に「ああ、この人は今回のセミナーで何か関わりがあるな」と思ったそうです。ミツさんはセミナーに参加する度、最初に誰かの過去世かガイドを見せられるそうで、その人とは関わりが深く、それが今回僕だということでした。

そしてそこでモンローとの再会も果たしました。またしてもがっちりと握手し、たった一言「Ｖｅｒｙ ｎｉｃｅ！」と言われたそうです。その後、英語が堪能な参加者に、文法的にそういう言い回しがあるのか確認していたのが面白かったです。

最初のセッションの前にトレーナーのカレンからプログラムの説明がありました。

ライフラインはロバート・モンローが精神科医のエリザベス・キュブラー・ロスと共同開発した『スタープログラム』の一環として作られました。もともと死を迎えつつある人の手助けをする意味合いがあり、妻のナンシーが癌に侵されていると知っていたモンローにとってこの共同開発は特別な思い入れがありました。

そして、死んだ人とのコンタクトをあの世で取れるようにする訳ですが、後にそれとは別の重要な奉仕があることが分かりました。それが信念体系領域に囚われている人たちの救出活動です。

それは時に自分の側面であったり、別の人生での自分であったり。それらに自分の意図、愛情、奉仕したいという気持ちが特定の死んだ人と繋がる、ということでした。

初日のセッションは『リセット・フォーカス１０』『ＤＥＣヒーリング』『リセット・フォーカス１２』を行いました。僕はいつもビジョンが見えない分、体感が強い方です。この時はヘッドフォンを着けた瞬間に振動が始まり、目が痙攣してうまく閉じることが出来ませんでした。

このまま体外離脱をしてしまうのかなと思うほどでしたが、期待に対する興奮のせいか、何も起こらず終わりました。また、隣ではミツさんがセッションをしていたので、ミツさんのことが気になっていました。

するとセッションが始まってフォーカス１０くらいでミツさんの寝息が聞こえてきたのです。あまりに深く長い寝息に、「すごい！これが本当の『意識は目覚めているが肉体が眠っている状態』か」と感心していました。

後で体験を確認すると、「寝ていました」とのことでした。前日は東京で飲みすぎたらしく、二日酔いがあったそうです。僕の記憶する限り、この日以降のほとんどのセッションで寝ていました。

セッション後にはミツさんからビジョンの見方を教わりました。

「白いスクリーンの映画館に１人でいるのをイメージするといいですよ」、「目で見るんじゃなくて、頭の中で見るんです」ということでした。

③ 通訳と交信

初日の夜は、同部屋のみんなで自分のことを話しました。今回、この深夜の会話が僕にとってとても有意義な時間になりました。それは他の３人にとっても同じだったようです。

ミツさんからはいかに覚醒が始まったのかを詳しく聞きました。

それによると２００７年５月の『ガイドとの邂逅セミナー』でモンローが幽霊屋敷のようにトイレ、洗面所、風呂場など至る所で現れ、気のせいでは済まされない強烈な体験をさせられました。

それについては「もう死んでるんで、ストーカー規正法なんてあったもんじゃないですよ」と笑っていました。その後モンローに「アメリカに来なさい」と言われ、２００７年１２月の日本人対象モンロー研究所ツアー、ゲートウェイ・ヴォエッジに参加し、モンローからいろいろなことを教わりました。

そこでは、とにかく「通訳をやりなさい」と言われたそうです。

「なんで自分なんだろう」と思っていたミツさんでしたが、あまりにしつこいのでそれを承諾しました。その時に、非物質で空一面にスタンディングオベーションで拍手喝采だったそうです。そこには知っている人も知らない人もいて、「僕はこんなに応援されているんだ」と感動し涙したそうです。

しかし「通訳」の詳しい意味が分からず、今日まで来たと言っていました。

ゲートウェイ・ヴォエッジでは参加者全員のガイドが部屋に来て、本人に伝えて欲しいメッセージを言われ、ノートに一生懸命写しました。しかし「俺の人生こんなことをするためにあるのかなぁ」と思ったそうです。

僕たちは、なぜミツさんがモンローから役割を与えられたのかを考えました。ミツさんは沖縄の那覇市、浦添市内で進学塾の経営をしていて、子供に勉強を教えています。難しいことを分かりやすく教えるのが先生ですから、そういう意味での「通訳」かもしれません。

あと、昔から不思議に思っていたことがあるそうで、それはどんな時にも冷静であることです。

たとえ誰かが亡くなっても不思議なくらい落ち着いているので、自分が情のない人間なのではないかと思っていたそうです。３０人を相手に２人で喧嘩をした時、あまりに冷静すぎて時間が２～３秒止まったように感じたことがあり、負けはしたものの最後まで冷静だったといいます。

僕はそこに理由がある気がしました。

実は「通訳」とは、「交信」のとこではないかと思ったのです。冷静なミツさんだからこそ、高いフォーカスレベルにいる存在と臆することなく「交信」し、非物質界の真実を伝えることができるのではないでしょうか。

ミツさんはもともと、沖縄のユタ文化を無くしたいと考えていました。

宮古島市出身で、小さい頃からユタが説く神様の教えのもとで育てられてきました。沖縄に住む人たちにとってユタは絶対的な存在で、政治家よりも尊敬される立場にあるのだそうです。

僕も一度、友人と一緒にユタに霊視していただいたことがあります。そこでは主に先祖との因縁を伝えられ、具体的な解消の仕方も教えていただきました。霊視で過去の出来事や現在の状況を事実として伝えられた上でのアドバイスだったので、能力は素晴らしい方だと思いました。

２００７年に覚醒が起きるまでは、ミツさんもユタが説く神様を信じて生きてきましたが、それ以降は「今まで信じていたものは何だったんだろう」と思ったそうです。

それからは家にある神棚を捨て、今は本当に楽になったといいます。

「ご先祖様が怒っているから、神頼みをしなさいと言われて。その後またユタに会いに行ったら、気持ちが届いてないからもう一度やりなさいと言うんですよ。それの繰り返しで２０万円くらい払いましたからね。そんな意地悪な神様どこにいますか？」

沖縄ではユタの説く宗教は文化にまで発展しているので、なかなか異議を唱える人はいません。「それを何とかして無くしたい、その方がみんな幸せに生きられる」と何度も言っていました。ミツさんは自分を育ててくれた沖縄が大好きなので、それは真剣に伝えていこうと考えています。

僕は、これから伝えていくのはそれだけではないと思いました。それは、ミツさんの考えだといわゆるスピリチュアル思想で一般的に言われていることとも相反することが多くあったからです。

たとえば「学び」。

この言葉自体はとても好きで、状況を常にそう捉えることで自分の意識向上に役立っている気がします。しかし危険なのは、状況が好ましくない時にすべて学びとして諦めてしまうと現実を切り開いていく行動力がなくなってしまう気がするのです。なるほど、と思うことを言っていました。

「セミナーに３０万も払って何も見えないって。それってどんな学びですか？そんなこと学ばせるガイドってどんなガイドですか？」

確かに今まで自分なりの努力を時間とお金を費やしてきました。しかし、僕の「ビジョンが見えるようになるのは、ちょうどいいタイミングにガイドが導いてくれるんだ」という思いが既に他人任せなのです。

実際、量子論のように未来が確率で決まるとすれば、見えるようになるタイミングというものがあるのだと思います。でも、今見えるようになるかどうかは、その未来を引き寄せることができるかどうかに懸かっているのです。

それができるのは、自分しかいないと思いました。

「過去世の因縁」もそうです。

確かに過去世は存在すると思っていますし、因縁があれば生まれる前にその部分を学べるようにしてくると思います。しか

し、すべて過去世のせいにしてしまっては今ここにある現実を過去世の結果として受け止め、楽しい生活を送ることができない気がするのです。

人生を修行として捉えている人は過去世の解放がテーマになり、それと対峙する人生が生きがいなのでしょう。

しかし、そうでない人が過去世の因縁を知ってしまうと、今生きている現実がとても苦しいものになってしまいます。別に過去世からの流れが関係ないとは思っていません。今の自分はその集大成であるし、永く続いてきた癖などはこれからの人生もそれを断ち切れないまま連綿と続いていくのでしょう。

しかし過去や過去世と対峙した人生を過ごすより、今ある現実をいかに楽しく過ごせるか、それが自分自身のためになる気がするのです。

「生まれてきたことは罪である」と修行するより、楽しい現実を生きることの方が遥かに過去世の解放になるのではないでしょうか。それまでは修行的人生を良しとして生きてきた僕にとって、ミツさんの考えはとても地に足の着いた現実的なものでした。

④ 何も見えない

２日目はリセット（復習）から始まりました。

『リセット・フォーカス１５』の時、ヘッドフォンから変な音が聞こえてきました。「トントントトトン」のリズムが多く、机に手でゴルフボールを当てるような音です。後で坂本さんに確認したところ、そういった音は入れていないとのことでした。

たまにヘミシンクを聞いている時に非物質の音や声を聞くことがあるのですが、いつも思うのは「区別がつかない」のです。周りに確認してからやっと分かるので、セッション中は疑問で終わってしまいます。

モンロー研究所に行った時、同室に「カーネル」というあだ名のゴーストがいました。

モンロー研究所のセッションルームは基本的に2人1部屋で、部屋のベッドがカーテンで完全な暗室となります。そのセッション中に外で足音が聞こえるので最初は誰かが見に来ているのかと思っていました。

しかし確認するとそういった事実はなく、モンロー研究所では有名なゴーストだと分かりました。

その頃非物質の存在に得体の知れない恐怖を抱いていた僕は、その後更にセッションに集中することができなくなりました。カーネルの足音やヘッドフォンを叩く音、声はリアルそのもので、僕が怖がるのをいいことに終いには抱きついてきました。今もあの部屋にいるのでしょう。

ビジョンは見えない僕ですが、その度に思うのは、少なくとも脳は同期しているということです。

つまりビジョンが見えていないのは、そのフォーカスに行けていないからではなく、行けていても自身がそのビジョンをキャッチできていないということなのだと思います。

次の『リセット・フォーカス21』では、特に邪魔されることもなく、そしていつものように何も見えることなくセッションが終わりました。

この頃から気付いていたのですが、セミナーが始まってからセッションで1回も寝ていませんでした。自宅学習やそれまでのセミナーだといつも寝てしまうのですが、なぜか目が冴えて寝ることがありませんでした。ミツさんとの出会いで興奮していたのかも知れません。

午後に入り、フォーカス２１を超える新しい領域に入っていきました。いわゆる「死後の世界」です。『フリーフロー・フォーカス２３』では生体マップを使ったエネルギーワークを行ないました。

この時、ミツさんが僕のガイドである警察官とバレエダンサーを引き連れ、５ｃｍほどになって左の鼻から体に入り、右脳の上に立ったということを後から聞きました。

僕の脳を工事してくれる予定だったらしいですが、ミツさんが寝てしまって気付いたらセッションが終わっていたそうです。ミツさん自身、非物質の存在に脳の工事をされて知覚が一気に拡大したので、知覚拡大の鍵が脳にあるのは分かっていました。それを僕にもやってくれようとしたのです。

また、ミツさんのガイドがセッション中に「膀胱」という文字を見せ、僕の方を指さしたそうです。熱海に来てからトイレに行く頻度が増していたのでそれを指摘していたのだと思いますが、何か問題があるのかなどは分かりませんでした。

⑤ 体外離脱と意識体分割

２日目の夜は、昨夜に続きミツさんの「通訳」の意味について話しました。

結局、高いフォーカスレベルにいる存在との「交信」をし、的確な情報を取ることをモンローが「通訳」と言っているのだとまとまりました。なぜミツさんが非物質界から的確な情報を取ることができるのか、僕がそれを分かるにはほんの短い時間の観察で足りました。

それは「信念」です。

「この人はなぜ爆発的覚醒し、ここまで知覚が拡大したのだろう」と、常に思考・感情・表情・性格・認識・行動を見ていました。

普通の人と決定的に違うのは、信念がないのです。

いや、普通の人に比べて信念がかなり少ないのだと思います。特に何も信じていないミツさんは常に淡々としていて、表情筋が下に落ちそうなくらい身体の力が抜けています。

ヘミシンクに関して言えばレゾナント・チューニングはしない、リーボルは張らない、アファメーションはしない、何の効果も信じないのです。これらは効果があると言われているので僕もやっていて、まったく否定するつもりはありません。ただ、それをやらないで知覚が拡大し、危険な目に遭っていない人がいる、ということです。

『死後探索シリーズ』のブルース・モーエン氏は「信念はフィルター」と言っています。そして、そのフィルターを外すことに知覚が拡大していくのだそうです。逆に言えば、「ビジョンが見えない」僕は信念だらけなのだと思います。

信念は自分の側面なのでなかなか気付くことができませんが、そばに信念の少ない人がいたら、事あるごとに信念が揺さぶられやがて崩壊していくのでしょう。それが３日目以降でした。

ミツさんの役割である「通訳」を「交信」と解釈することについて、僕やアキラさん、ヒデさんにとってはごく自然な流れでしたが、ミツさんにとっては「超すっきりした」そうです。『アセンション・アカデミー』という子供の覚醒を促す施設を創るビジョンは見せられたものの、どういったことを伝えて講義するのか分からなかったからです。

そしてこの時からミツさんはフォーカスレベルについていろいろ聞いてきました。Ｉ・Ｔのこと、クラスター・カウンシルのこと、そしてフォーカス１１９のこと。誰から情報を取るのがいいかを聞いてきたのです。「ああ、この人はこれからそこに行くんだろうな」と思いました。

ミツさんはヘミシンクとその周辺の知識がほとんどなく、覚醒した時はモンローの顔も知らず、登場した時は「知らないお

じさん」と言っていたそうです。僕は坂本さんの『死後体験シリーズ』やブルース・モーエン氏の『死後探索シリーズ』を読んでいたので、分かる範囲でいろいろ伝えました。

そしてミツさんが見たビジョンの話を聞くと、明らかにフォーカス３５のＩ・Ｔと思われるものがありました。本人はフォーカス２１まで行くプログラムしか受けたことがないので、フォーカス２１までしか行ったことがないと思っていました。ちなみに、同じＩ・Ｔのメンバーにリンカーンとバッハがいたそうです。

また、ミツさんは意図して広義の体外離脱を自由にでき、その離脱した意識体（エネルギー体）を一度に３０人まで分割できます。これをミツさんは特に「意識体分割」と呼んでいます。

僕の拙い経験ですが、肉体を寝かせて体外離脱しエネルギー体がどこかへ行く時、寝ている自分と移動している自分、両方「分かる」のは不思議な体験でした。

それを本で読んだ時は理解が難しかったですが、経験すると面白いです。よく分かります。ただ、３０人ともなると想像がつきません。それぞれの意識があって、それぞれが別々の行動をとる。一体どのような感覚なのでしょうか。

あるセッション後のブリーフィングルームでシェアの時間、ミツさんは暇だったので体外離脱してルーフバルコニーに行き、空をフワフワ浮いて楽しんでいました。

その後３０人に意識体分割して半円になり、端から順番に「アー」と声を出すと、それぞれの声の大小や高低、遠近感まですべて分かったそうです。

これは面白い実験だと思いました。方向が分かるということは、非物質界でも音源が空気を伝播するように届くということです。それとも、「距離がある」という信念がそうさせているのでしょうか。

ちなみにそのことを後から参加者のＭちゃんに話したら、ミツさんがそれをやっていた時間あたりに、そしてその場所あたりに鳥がたくさん来ていたそうです。そしてミツさんは体外離脱して「何か」と同調することを「重なる」と言っています。

これは意識体なので超時空間、つまり対象とする人や物に時空を超えて重なることができます。

たとえばミツさんは３万年前の人類に重なったことがあります。

地に足を張るような力の漲った立ち方で、その体勢からすぐに前でも後ろでも走っていけるのが体感として分かるそうです。そして獲物を狙うために視界が「ピーン！」と研ぎ澄まされて３６０度に、そして遠くまで、いわゆるフォーカス１２の状態だったそうです。

そういえば毎晩激論が飛び交うこの部屋を、ミツさんが『覚醒ルーム』と呼んでいました。

確かにこの時僕らの頭は異常に冴え、とにかくいろいろなアイデアがポンポン出ていました。僕はアキラさん、ミツさん、ヒデさんに引き上げられていたのでしょう。いつもより会話のレスポンスが早いのは、とても快適な気分でした。

⑥ 見えない理由

３日目は僕にとって生涯忘れることのできない衝撃的な日となりました。

セッションはフォーカス２４の「信念体系領域」に入り、自分の「信念」を書き出すことから始まりました。これはあまり考えず、適当に書き出しました。

「信念」は自分の側面なので、一度認識できてもなかなかサヨナラができません。しかし、この日の夜までにいくつか消えてしまうような出来事がありました。

また、「信念」を書き出した後、画用紙とクレパスを渡され、「利き手と逆の手で思いつくままに絵を書いてください」と言われました。

僕の書いた絵は大きな円がいくつかあって7色のカラフルなものでした。その後それぞれペアになってお互いの絵について「ガイドからメッセージを受け取ってください」と指示があり、僕はペアになった女性から「真っ直ぐな感じ。迷いがない」と言われました。

「ビジョンが見えなくてかなり迷っているんですが」と思いましたが、部屋に戻るとアキラさんに「この色、チャクラが全部揃ってるじゃないですか。一真くんらしいですね、すごく真っ直ぐなのが出てますよ」と言われました。2人とも同じ評価なのは驚きましたが嬉しかったです。

その後でアキラさんとペアになったMちゃんから話を聞いたのですが、アキラさんは画用紙に何も書いていなかったそうです。それでもMちゃんが白紙の紙に対して必死にガイドからのメッセージを伝えたそうですが、アキラさんからはメッセージをもらえなく、「あの人何やねん！」と怒っていたのが面白かったです。

この後『フリーフローフォーカス２５』『ＤＥＣアザーズ』を2本立て続けに聞きました。しかしこれらのセッションで特に何もビジョンが見えなかった僕は、部屋でミツさんに相談しました。

僕は一緒の部屋にいるだけでいろいろ学べるので相談するのは極力やめようと考えていましたが、1年近く何も見えないままでいるので、ガイドを通してその理由だけでも聞きたかったのです。

ランチの時間だったのでミツさんからは「今ですか？」と言われましたが、正直にお願いしました。

見えない理由、それはガイドの1人である警察官が大きく関わっていました。警察官は常に回りに意識を広げているため、それがキョロキョロした仕草になり、内面に意識を集中できていないことが分かりました。

僕は昔、「落ち着きのない子」でした。そして、人探しが異様に早く、人混みの中でも、反対側の歩道でも、すぐに友人や

有名人を見つけます。それが出来てしまうのは、自分でも不思議でした。

これを活かす天職が警察官だったとは思いませんでしたが、それが分かると自分の中で何を変えていけばいいのか分かりました。その後ランチでミツさんと食事をしている時、ミツさんが面白いものを見ました。

隣のテーブルの女性が「鉄が…」という話をしていると、その言葉が飛んで来て僕の目に２ｃｍくらいの厚みがある鉄の塊がつきました。そしてドロドロと流れ落ちていったのです。

「あーっ、目にこんな分厚い鉄の塊がついてますよ！ドロドロ流れ落ちています。すごい！これだけ分厚いものを目につけていたら誰も見えないですよ」

と笑いながら言われました。

この後、何かが変わっていくような気がして、ワクワクしていたのを憶えています。そして午後のセッションが始まる前、シャワーを浴びていたミツさんのもとに僕のガイドの警察官が来たそうです。

「さっきも登場しましたよ。『ありがとう』って言われました。それでも被り物に表情を隠して顔を見せなかったですよ。かなり偉い人なんじゃないですか」

と、いつもの淡々とした顔で言われました。

僕はガイドに感謝しました。本来、人にお礼など言いたくない性格なのだと思います。それが僕の知覚能力を拡げるために部屋を設定し、ミツさんのところへ走り、お礼も言う。改めてガイドは常に強力に働きかけてくれているのだと思いました。

僕にビジョンを見て欲しいのです。自分たちの存在に気付いて欲しいのです。その存在たちを代表して物質界に生きている、生かされている、ということを考えると、人生は本当に素晴らしいステージだと思いました。

⑦ 脳の工事

３日目の午後は『死後世界ツアー』から始まりました。

このセッションで初めて寝ました。実はそれまでの２日間ともに２時間くらいの睡眠しか取っていないにもかかわらず、１度もセッション中に寝たことがなかったのです。

ミツさんからは「１回でこれだけ変わるのだから、絶対に今回見ますよ」と目をじっと見て言われました。確かに、それまでの目がギンギンに冴えているような感覚がなく、ニュートラルになった感じでした。目から鉄が溶けたせいなのでしょうか。

次は『フォーカス２７序章』で、僕にとっての衝撃的な出来事はここで起こりました。

この時も半分くらい寝てしまったのですが、途中フォーカス２７で起きた時にヘミシンク音が脳を刺激し強烈だったのを憶えています。目覚めるとスッキリしていました。毎回ミツさんにシェアしているのですが、この時も「何も見えませんでした」と言いました。

しかし夕食を食べに行く途中、思い出したことがあったのです。エレベーターに乗る時、「そういえば」と切り出しました。

セッションが始まってすぐに２～３秒のビジョンを見た気がしたのです。

そのひとつはサッカーをしているのを上から見たようなビジョンで、普段イメージで見るのと違うので「あれ？」と思った記憶があるのです。なぜ普段と違うと思ったかと言うと、「ビジョンが動いていた」からです。

たしか緑の芝生の中に黄色の服と青色のパンツを履いた人が、左から右に動いていて、とにかく動いていたのが分かりました。僕は「よく考えればあれがビジョンなのかなぁ」なんて言いながらレストランホールに着いた頃、それまで話を黙々と聞いていたミツさんが言いました。

「それ自分がやったんですよ」

「えっ？どういう意味ですか？」と言うと、

「さっき脳をいじったんです」

ミツさんはいつものように淡々と答えました。

僕はとにかく驚きました。あまりにビックリして大声で「本当ですか！？」と聞いてしまいました。

僕が嬉しそうな顔をしていたので、周りのみんなが「どうしたの？見えるようになったの？」と聞いてきてくれました。最初は「ミツさん、凄いですね～」なんて言って笑っていましたが、席に着いて食事を始める頃になぜか涙が溢れてきました。

突然の涙で自分でもよく分かりませんでした。

それは「初めてビジョンが見えた」という嬉し涙だと思ったのですが、それが止まらなくなり終いには号泣してしまいました。食事の席で目の前にはモモさん、右にミツさんが座っていて、周りのみんなが見ているのに大声を出して泣いてしまったのです。

自分で感情を抑えようとしているのに抑えることができず、子供のように泣いてしまいました。激しい嗚咽で体の力が抜け、床に倒れ込みそうになりました。座っているだけでも力を使うので、いっそこのまま倒れてしまえば楽になるとすら思いました。

向こうの方に坂本さんがいて、その席の人と話しながらもこちらを気にしてくれているのが分かりました。すぐ近くに仲のいいMちゃんがいるのが分かりました。他のみんながあまり見ないようにしてくれているのが分かりました。自分でも分からない感情が溢れ出してきて涙が止まりませんでした。

泣きすぎた僕は体がフラフラになってしまっていたので、モモさんにお願いして一緒に部屋に戻り、ヒーリングをしてもらいました。

そこでもかなり泣きましたが、モモさんのおかげで15分くらいで泣き止みました。少しして、「あの涙は何だったのだろう」と考えました。「これからビジョンが見える」という嬉し涙かと思いましたが、すぐに「そうではない」と思いました。

それは、ミツさんの優しさに心から感動したからだと思います。

ミツさんの性格は、いつも淡々としています。冷静であることは本人も自覚していて、周りからすると一見近寄り難いような印象もあり、その落ち着きがやる気のないような印象があるのです。

僕は実際ずっと一緒にいたので分かるのですが、本当のミツさんは「いつも楽しいことしか考えていなくて、とにかく人のことしか考えていない」人です。

「沖縄のユタ文化を無くしたらみんな幸せになれる」、「ヘミシンクでみんなビジョンが見えるようになったら、アクアヴィジョン・アカデミーにもっと人が来る」、「みんなが僕と同じ能力を持ったら、こんなに楽しいことはない」。

僕はどこか、「自分だけ良ければ良い」という部分があります。いつも周りのことを考えているつもりでも、余裕がない時は自分のことを考えてしまいます。人間って、誰でもそういう部分があると思います。

脳の工事をしたセッションをする前にも後にも、ミツさんからは何も言われませんでした。セッションを始めるときは特に会話すらしませんでした。なのに、僕がセッションをしているときに必死になっていろいろ仕掛けてくれたのです。これが

分かった時の衝撃はとにかく大きかったです。

⑧ 知覚の拡大と信念の崩壊

3日目の夕食が終わり、ブリーフィングルームではセッションのシェアから始まりました。

僕はいつも大した経験ができていなかったのでシェアはほとんどしたことがありません。しかしこの時はみんながシェアを期待している雰囲気が分かったので、夕食前にあった出来事をシェアすることになりました。

最初はミツさんに「今回も何も見えなかった」とシェアしていたこと、その後思い出して「ビジョンを見た気がする」と言ったこと、「あれ？ビジョンが動いている」と思ったこと、「脳をいじった」と聞いたこと、そしてとにかく驚いたこと。

そしてその後の話になってくると、また涙が溢れ出してきてしまいました。藁をもすがる思いでカウンセリングをしてもらって、いろいろアドバイスをしてくれて、何も言わずに陰で必死に動いてくれて、いつも人のことしか考えていなくて、本当に愛がある人で、すごく嬉しくて、感謝の気持ちでいっぱいで…というようなことを涙と鼻水を垂らしながら話しました。

トレーナーのカレンがニコニコ聞いていてくれたのを憶えています。

僕のシェアが終わるとみんなが温かい拍手をしてくれました。その後、坂本さんが「ミツさんは一体何をしたの？」と話を振りました。するとソファーに座っていたミツさんがいつものように落ち着いた語り口で話し始めました。それによると、ミツさんは僕が「ビジョンが見えない」と言った時から「何とかしてあげたい」と思っていたそうです。

そして僕の見えない理由、例えば意識が外に向いていること、鼻や喉に注意が向いてしまっていること、体感が強くて集中

できていないことなどを挙げました。

この辺りからカレンも真剣な顔でミツさんを見ながら通訳に耳を傾けていました。その後、話はセッションでの出来事に移っていきました。

セッションが始まると僕のガイドの警察官とダンサーがミツさんの横ですでにスタンバイしていました。

そして最後に巫女さんが来たので「この人は誰だろう」と思ったそうです。そして警察官を先頭にしてミツさんたちが僕の体に向かい、その途中でだんだん小さくなっていき、ミクロになって鼻の左穴から体内に入りました。その移動中は一切会話がなく、ガイドから独特の緊張感が伝わってきたのだそうです。

そこから右に方向転換をして右脳と頭蓋骨の間のスペースに立ちました。

そしてコンコンと〝ある場所〟を叩きました。

その場所こそがビジョンを見る時活性化されるべき場所なのです。そこに精密な周波数計を取り付け、波動の微調整を自在にできるようにしました。その後僕が普段どんな状態でヘミシンクを聞いているかを調べるために僕に重なりました。すると体感が強く集中できていないのが分かったので、そのエネルギーを磁石のようにして掴んで何度も脳に上げました。

そして額のチャクラをコルクで開けるとドロドロした液体が出てきたので取り除き、ミツさんから出ている光を当てました。そして巫女さんが用意した大量の写真を、僕の額に向けて送り続けました。

それを僕が「見た」と言ったのです。

他にもミツさんはたくさんのことをしたそうです。

僕の「見えない」という思考をエネルギー変換ボックスに入れたり（３回も蓋から出てきたので、３回入れたそうです）、

体に蛇を入れて悪いものを食べさせたり、ミツさんのビジョンを見ている時の波動をロウソクに転写して僕に移したり…たくさんのことをしてくれました。

しかしこれはあくまで「一番原始的なやり方」だそうです。

ミツさんがこのシェアをしている時、実はまた泣きっぱなしでした。そして部屋に戻る時に仲の良い人たちがハグをしてくれました。

その日の最後のセッションは『スペシャルマイプレイス』でした。フォーカス２７に自分だけの場所を造ります。セッションを開始しようとヘッドフォンを着けたらまだ開始前のメタミュージックが流れていましたが、そこでビジョンが始まりました。

…岩場のある海にたくさんの人が上半身まで海に浸かってこちらを見ている。１００人くらいいそうだ。肌が黒いのか、影がかかっているのか、見せないようにしているのか、誰なのかよく見えない。髪は長い。男だ。ポリネシア？

頭に「ポリネシア」と入ってきた時、自分でビジョンを遮断してしまいました。坂本さんの本に書いてあった過去世とよく似ていたので、「そんなはずはない」と思ったのです。

ビジョンは２～３秒でパッパッと変わりましたが、どれも同じような場所でした。アングルが違ったり、横にスクロールしていたり。他にフォーカス２３で古びた建物が見えました。しかし目を凝らして見ようとするとすぐに消えてしまいました。

セッションが終わってからミツさんにシェアをすると、海のビジョンは「ガイドたちなんじゃないですか？」、そして「メタミュージックみたいにエネルギーが低いところでビジョンを見るなんて凄いことですよ。まだ疑いが強いから消えちゃうんですよ」と言われました。

そして何となくノートの前のページを見ると、そこには午前中に書き出した「信念」がありました。

それを見た時一瞬「あれ？」と思いました。わずか半日前に書いた「信念」のいくつかが自分の中で消えてしまっていたのです。それは、その「信念」を読んでも「そういう気持ちはないなぁ」と思えるのです。

よく「知覚の拡大には信念の崩壊が伴う」という話を聞いたり読んだりします。

言葉では分かっていてもなかなか経験し、なおかつそれに気付くのは難しいです。しかし僕の場合は、いきなり知覚が拡大したので「数時間前の自分と比べて何が変わったのか」というのがよく分かるのです。

人前で泣くことに意味があったかどうかは分かりませんが、今までの経験にない行動を取ってそれを整理できたことが信念の崩壊を招いたのだと思います。

その後にミツさんと大浴場へ行きました。初めは大浴場に他の人が何人かいたのですが、いつの間にかミツさんと僕と、広島から参加されているHさんという人だけになっていました。３人で湯船に浸かっているとミツさんが話し始めました。

「実は今回、一真くん以外にも、Hさんも『上がる』って見せられたんですよ」

ミツさんはこういったメッセージは、その人と話す場面が設定させられないと本人には伝えないそうです。そして僕が驚いたのは、ミツさんは意図しないでもその人とだけでゆっくり話すことのできる場面が設定されてメッセージを伝えることができるのです。

「不思議なんですけども」と淡々と言っていました。

Hさんはご年齢的にも大先輩で、長年座禅を始めとする厳しい修行を自らに課し、それを欠かさず実行しています。いつもニコニコしてみんなを和ませてくれるとても楽しい方です。

そんなHさんがミツさんからメッセージを伝えられると、とても嬉しそうにしていました。３人で１５分くらい湯船に浸かって話していましたが、本当に誰ひとり大浴場へ来る人はいませんでした。

⑨ 宇宙人との交信

３日目の夜はミツさんが午前中に書いた絵について話しました。

ミツさんの絵には『スペース　―　時間　―　かいほう』と書いてありました。ミツさんはガイドに任せて書いていたので、「これって何ですかねぇ」と考え込んでいました。部屋の４人とも分からなかったので、アキラさんの話を聞いていました。

ミツさんはアキラさんのことを「宇宙人評論家」と言っています。

最初は「怪しい人だなぁ」と思っていましたが、アキラさんの宇宙人との接触談はとても面白く、興味を持って話を聞いていました。アキラさんは２年前の５月１７日までまったく非物質界との接触がなかった人ですが、その日を境に宇宙人とのコンタクトが始まり、人生が変わってしまった人です。

その話を聞いているとき、ミツさんが

「ちょっと。待ってくださいよ」

と注意を引く言葉を言いました。

いつものように足を組み頬杖をつきながら、次に

「宇宙人がいますねぇ」

と続けたのです。

アキラさんは驚くこともなく、「この部屋、さっきからずっと来ているんですよ。俺たちの話を聞きに来たんじゃないですか」と言っていました。

ミツさんの視線の先にはバルコニーへ続くガラス戸がありました。ミツさんはそこに膝まであるブーツを履いた身長２メートル以上ある高貴そうな服装の宇宙人がいるのを見たのです。その他にもジェル状の宇宙人など、全部で５種類の宇宙人がいたといいます。

そして、「紙とペンありますか？」と、ミツさんは自分が書いた絵の裏にメモを取り始めました。

「太陽」
「銀河系」
「アンドロメダ星雲」
「Ｍ２７」
「フォスター」
「プラレタリウム」
「スカンジウム」
「６兆光年」

宇宙人とコンタクトを取り始めたミツさんは、まずは伝えられた言葉を丸で囲ったりしながら書いていきました。単語だけ羅列していることから、初めての宇宙人との交信はなかなか難しかったようです。

宇宙人側も必死になって高貴そうな印象の形になって現れ、宇宙にはないかも知れないような概念を言葉にして飛ばしてきたのです。

これらの言葉はだいたい物理で習う用語ですが、その中の「フォスター」についてはよく分からないままです。また、「プラレタリウム」は「プラネタリウム」の間違いだと思います。ミツさんは続いてまたメモを取り始めました。

「8」「ワームホール」「ループ」「ここにいる、開始。大丈夫。あと少し」

驚いたのは、ミツさんが宇宙論の知識がまったくないにも関わらず「ワームホール」という用語を伝えられたことです。ワームホールは一般相対性理論で予言された「時空の穴」で、いまだにその存在は発見されていません。

ただ、存在する可能性が理論上許されている、というだけです。ワームホールを使えば「空間の壁」と「時間の壁」を越えられるとされています。

細かくは分からないですが、ミツさんは宇宙人との交信を「ワームホールの向こう側に宇宙人が待機している。そこにいるから大丈夫、あと少しで始まる」と解釈していました。

そしてこう続けました。

「面白いですねぇ。僕が宇宙人と肩並べてこちらに手を振っているんですよ。僕に向かって」

ミツさんは体外離脱をして、ジェル状の宇宙人2人に挟まれたまま彼らの住む星から一緒に手を振っていたのです。その様子を肉体のミツさんが解説してくれました。その星は芝生が生えていたそうですが、「こちらに分かりやすくするために便宜上、草を敷いたのかもしれないですね」と言っていました。

一瞬で宇宙の遥か彼方へ連れて行かれたミツさんは、

「面白いですねぇ。一瞬ですよ、一瞬。宇宙ってすっごく広いけど、すっごく狭いんですよ」

と身振り手振りを交えながら教えてくれました。その後ミツさんは、宇宙人がライフライン参加者全員の枕元に立ち、頭に

エネルギーを送っているのを部屋から見ています。

宇宙人との交信が始まって３０分くらいすると、ミツさんは交信をやめました。理由は「疲れたから」ですが、「もう仲良くなったんでいつでも交信できると思いますよ」と言っていました。

宇宙人はミツさんに一番何を伝えたかったのでしょう。今はよく分からなくても、ミツさんはその望まれていることをしていく人だと思いました。

今回、ミツさんはアキラさんの話をきっかけとして宇宙人との交信が始まりました。

「宇宙人なんているのかなぁ」というミツさんの信念に、親しい人の「宇宙人はいるんです」の言葉が反応し、すぐに崩壊したのだと思います。そしてその瞬間に宇宙人が見えるようになったのですが、この飲み込みの早さがミツさんの常人を凌駕しているところです。

信じられないような話をいかにして飲み込むか、腑に落とすかが大事なのだと思いました。

その後、僕も何度か視界の端で動く「何か」を見ました。ヘミシンク中に目を開けて肉眼で「何か」を見ることはあるのですが、普通の状態でいわゆる非物質の存在を見たことはなかったのでかなり驚きました。

宇宙人か幽霊か何かは分かりません。

その他にも、夜部屋に来てミツさんにヒーリングを施したＭちゃんの生霊がヒーリングをした部屋から覗いていたりと、いろんなことがありました。

⑩ 時間と空間を解放する

３日目の夜、僕らの話は尽きることなく様々な方向へ展開していきました。

ミツさんが以前から考えていたことの１つに、面白い実験がありました。それは、絵の世界に入ることです。「そんなバカな！」と言うのは簡単ですが、ミツさんが考えるからこそ、僕も真剣に考えてみました。

宿泊部屋には、橋が架かる川にボートが浮かんでいる水彩画が掛かっていました。

ミツさん曰く、「実際に画家が絵を描いている時にボートに落書きをして戻ってきたらそれが写っているんじゃないんですかねぇ」ということでした。ただ、それはボートの落書きを絵に描くか描かないかという画家の自由意思の選択によるものなので、それよりは「絵を描いている時の画家に重なって、絵に落書きを描かせる」方がいいと思いました。

絵だと実際にない風景だということもあり得るので、その絵が写真である場合について考えました。

例えば「写真を写す前の現場に行き、ボートに落書きをする」と、写真には落書きが写っていそうな気がします。しかしそれをこちらの世界で「今か、今か」と僕らが目を凝らして観測していたらどうなるでしょう。もう現像されている写真に化学変化が起きて線が伸びていくのでしょうか。この話はいくら考えても延々と議論ができ、オチがつかないので実際に実験するのが一番だと思いました。

こういったくだらない議論をしているうちに、アキラさんが「そんなのどうでもいいんですよ」と言い始めました。

ヒートアップした意味のない（？）議論に、冷静なアキラさんが笑いながら諭してくれたのです。その後フォーカスレベルに関しての議論をしていた時、またしてもアキラさんが「どうでもいいんですよ」と言いました。そして、「そんなのもともとないんですよ」とも言い始めました。

それは、「もともとフォーカスレベル自体モンローが書いた道標で、そんなものは存在しない」という趣旨の話でした。

「なんでフォーカス２７に行くのに１，２，３なんて数えるんですか。意図すれば行けるんですよ。車に乗って目的地まで行く時に、途中で１回１回止まるんですか」

とも言い、最終的には

「数字がついているから遠く感じるんですよ」

そして

「行きたきゃ行けばいいんですよ」

とまで言っていました。

これらの話はくだらないかも知れませんが、非常に示唆的だと思いました。

『死後探索シリーズ』のブルース・モーエン氏は、「時間は存在しない。イベントが連鎖しているだけ」と言っていました。線は点の連続ですが、それと同じくイベントの連続を時間と感じているのかも知れません。

それを聞いた時はあまり理解ができなかったですが、ミツさんのように時間と空間を自由に行き来するのを目の当たりにしていると「本来そんなものは存在しないんじゃないか」と思うようになっていました。時間が存在しないのなら、空間も存在しないのではないでしょうか。

そしてすべては「現在」、「此処」にしかないのではないかと思ったのです。そう思った時にモンローのフォーカスレベルも宇宙の果ても何もかも「今この一瞬、此処にある」と思えました。

そして僕らはもう一度、ミツさんの絵を見ました。

『スペース　―　時間　―　かいほう』

その時に意味が分かりました。これは「時間と空間を解放しろ」、つまり「時間と空間に縛られるな」ということなのです。

それまでの飛び飛びの話が１つの線で繋がったので、僕は難問を解いた喜びでいっぱいになりました。そしてミツさんはというと、その場で時間と空間に縛られた信念が崩れ、フォーカス１１９に対する認識が変わっていました。

前日までは「行けると思いますよ」だったのが、「恐らくすごく簡単に行っちゃうんじゃないですか」になっていました。

⑪ ビジョンとその見方

４日目のセッションはいよいよ救出活動に入っていきます。

最初のセッションは『フリーフロー・フォーカス２７』です。１日前までビジョンがまったく見えなかったので、見えない癖がまた出ていました。気づくと目を凝らしてビジョンを見ようとしていたのです。

これではいけないと思い、額に意識を集中させ、映画館の中でスクリーンを見ているビジョンを意図しました。

横になってヘミシンクを聞いていると、リラックスする以上に強い体感のせいもあり意識が散漫になってしまうので、次の『ファーストリトリーバル（初めての救出活動）』からは座ってセッションをするようにしました。今まではとにかく体の力を抜くことを重視していたので、寝た状態でしかヘミシンクを聞いたことがなかったのです。

この時に座った状態でビジョンが見えたので、膝を立てても腰を丸めても、意識を集中させればビジョンは見えるのだと分かりました。

この時はフォーカス２７に行く途中に公園が見えてきました。大きな噴水がありました。地面がアスファルトで、たくさんの人がいました。しかしビジョンを見渡そうとすると、すぐに消えてしまいました。また、帰りのフォーカス１５ではピラミッドが見えました。

これらは「何となく見えた気がした」ビジョンなので、「昨日見たビジョンとは違う」と思いながら、ミツさんにシェアしました。

すると、「見えていますよ」と言われ、「ガイドはいろいろな仕掛けをしてくるので、見えたものはカットしないでくださいね」と教えてくれました。

このセッションで、僕は救出活動以前の問題でしたが、ミツさんは初めての救出活動を行ないました。しかしミツさんにとって救出活動はあまりにも呆気なさすぎて、感動も何もなかったそうです。

「崖の上にいて、下を見たら兵隊が４００人くらいいたんですよ。でっかいバスみたいな乗り物を作って全員中に入れて指で『ピッ』と上にやったら一瞬でフォーカス２７まで行きましたよ。４秒で終わりました」

もう戦争が終わっているにも関わらず、それに気付かず任務を遂行するために戦い続ける。途中で「何かおかしいな…」と思う人もいるはずなのです。しかし人数か多いので、任務遂行の信念が強すぎて、個々の疑いなんてすぐかき消されてしまいます。

それを一瞬にして強制的に救出してしまう、それはミツさんの意図の強さゆえだと思いました。

ミツさんからビジョンの見方を聞きました。ミツさんは「見る」ということを『えーっと』と目を上にして考える時と同

じです」と言っています。今はどこを見ていてもビジョンが見えるのだそうですが、最初のうちはそのイメージで見るといいそうです。

ミツさんはカウンセリングをする時にその人の斜め後ろ辺りを見ます。

僕がユタに霊視してもらった時もそうでした。それはそこに何か見えている訳ではなく目のやり場がないだけだそうで、「目で見るのではなく、額のスクリーンで見る」のだから、目は関係ないのです。

昼休み中にミツさんがシャワーを浴びている時に、ワームホールを使って宇宙人が来ました。

「ワームホールって初めて見ましたよ。筒のようにいくつか重なっているんですよ」

と平然と言っていました。

「というより、ワームホールを見た人が始めてだ」と思いました。おそらく宇宙人は、遥か彼方から来たということを、ワームホールの中を何重にも加速して通過して来たということを、重なったワームホールを使って教えてくれたのでした。

⑫ 誰でもビジョンは見える

４日目の午後は『セカンドリトリーバル（２度目の救出活動）』から始まりました。

自分の見たものを消さないように、見たものを信じようと決めて臨みました。そこで見たビジョンをいくつか書きます。

・西洋風の建物の外階段。高さ1メートルくらいの木がたくさんある。道がある。画面を１８０度転回する。目の前を２人の人が歩いている。ここは庭だ。広い。追いかけるがだんだんビジョンが小さくなって消えてしまった。

・空を飛んでいる。石でできた、鋭角の建物がたくさんある。中に穴が空いている。中に入ってみる。誰もいない。よく分からない。

・学校の教室。生徒はみんなおかっぱの女の子だ。みんな死んでいる（と思った）。先生はおばあちゃん。声を掛けても相手をしてもらえない。ビジョンの中に入り込めていないのか。そういえば、ビジョンに音がない。いつもそうだ。

・森の中にいる。目の前に道がある。下の方から１０人くらいが何かを担ぎながら登って来た。外から布が被っている。目の前を通り過ぎる時、中が見えた。中には誰もいない。追いかけたが、ビジョンが消えてしまった。

・台所にいる。いや、ここはレストランだ。隣に８期生のＭさんがいる。とてもニコニコしている。ビールを注いでくれた。何かを話した。憶えていない。

こういったよく分からないビジョンをたくさん見ました。ブリーフィングルームではこの体験をシェアしました。Ｍさんが出てきたビジョンの話もしましたが、「心当たりがない」と言われました。

しかしシェアが終わって部屋に戻る時、Ｍさんが僕のところへ走ってきて「さっきの話だけど、分かった。思い出した」と言われました。先ほどのセッションで、たしかにレストランで誰かと飲み物を飲んだ記憶があるらしく、それが誰だか分からないが、それではないかということでした。

人とビジョンを共有したのは初めてだったので、どんな小さなことでも嬉しかったです。

ビジョンを見る時は、目を閉じて額で暗闇を見つめます。この時はただリラックスして額に意識を集中させるだけです。それができるとそのうちに「ボヤ～」っと何かが見えてくるので集中していると画面に入り込みます。

画面に入り込む方法がいまいちピンと来ない時は、ビジョンが見えた時に一歩引いてそのビジョンが映っているスクリーンのある映画館のイスに1人で座っているビジョンを浮かべ、そこからスクリーンに走っていってビジョンの中に入り込む、という方法もあります。

最初は目の意識が強く、目で何かを見ようとしてしまいますが、普通目で何かを見ることはないと思います。

これらの方法を、ブリーフィングルームで話しました。

僕としては見えない人に「そのうちにガイドが導いてくれる」とか「必ずしも見える必要はない」、「想像が創造だ」というのは酷だと思っています。それでは見えない理由が曖昧になってしまうし、誰しも鮮明なビジョンが見たくてこのプログラムに参加したのだと思うからです。

ある人から「その方法で知覚を拡大して何になるのか」というような意見をもらいました。「本来は、自分で見えるようにならなくてはいけない」と。

その時僕は、これからこう言われ続けるのだと思いました。でもそういった声はあまり気にしないようにしています。それまで僕なりの努力はしてきたし、ビジョンが見えるようになった理由、つまりミツさんへの感謝は絶対に忘れないからです。

誰にでもビジョンを見ることはできると思います。

僕が1日でいきなりビジョンが見えるようになって分かったのは、ビジョンが見えないのは、ただ意識の集中がうまくないだけなのです。それができれば、誰でもビジョンが見えるはずなのです。

⑬ フォーカス119とイチローの意識

４日目の夕食に行く前、ミツさんに「そう言えばフォーカス１１９って行きました？」と聞きました。この頃にはミツさんのことがよく分かっていたので、いとも簡単に、誰に報告するまでもなく行っている気がしたのです。

案の定、ミツさんは「行きましたよ」と言いました。

「面白いのは、１１９まで行ったら時間が『ピタッ』と止まったんですよ」

猛スピードで移動し、フォーカス１１９に着いた瞬間、体が一瞬にして止まったそうです。そして、真っ暗なフォーカス１１９の先の方に光が見えたそうで、

「違うところが存在するのではないか」

と言っていました。そして、ミツさんでも「その先は行けない」と思ったそうです。ミツさんが移動してきたラインとは別のラインで展開される空間の先にその光があり、体が止まっている以上、「行けない」と思ったのです。

ここで言う「体」とは、もちろん「非物質の体」で、「意識体」のことです。フォーカス１１９に行った時、思考は働いていたにせよ意識体が止まったということは、信念が少ないミツさんでもその思考を超えるような状況が起こるような場所だったのでしょうか。

ここから情報を持ってくるには、ミツさんでもさらに信念を削ぎ落とす必要があるのかも知れません。

ミツさんと一緒に夕食を食べていた時のことです。

僕は「ある感覚」になりました。その「ある感覚」とは子供の時から頻繁に訪れる感覚で、僕は「何が何だか分からなくなる感覚」と名付けていました。

この感覚になると現実感が少なくなって夢の中にいるような、フワフワした意識状態になります。一度その状態になるとい つ治るのか分からなく、また治っている時は絶対にそのことを思い出せないので、普段は自分が時々「何が何だか分からな くなる感覚」になるということを忘れてしまうのです。

ミツさんの目の前でその状態になったので相談すると、すぐに重なって調べてくれました。

そして「警察官の習性で意識が別のところに行っちゃってるんですよ」と教えてくれました。僕がビジョンを見えない理由 の１つとして集中力の欠如がありましたが、逆に意識が分散しやすいということが分かりました。また、飛んだ意識の場所 を把握したりその戻し方を学べば、ミツさんのような意識体分割ができるようになるそうです。

僕は続けて「意図すれば誰にでも重なれるんじゃないですか？例えばイチローとか」と言いました。

するとミツさんは「考えたことがなかったですね。できると思いますよ」と言いながら、すでに重なっていました。「今ア メリカは何時ですか？」と言われましたが、分かりませんでした。

「イチローは車乗って風を浴びていますね」
「あぁなるほど。面白いのはこの人、風にも気を抜かないですね」

と感心したように言っていました。

ミツさんが感じたのはイチロー選手の「意識」です。恐らくミツさんが「イチローは風にも気を抜かない」と言ったのは、 イチロー選手の感覚の鋭さをミツさんが感じ取ったのでしょう。別にイチロー選手が常に風に向かって集中している訳では ないと思います。

もしかしたらイチロー選手が体中で風を感じている状態が、ミツさんが「風から情報を取る」ような状態に近いのかもしれ ません。

「風を感じる」という行為は、風の相対的な速度や温度、湿度などを感じることですから、意識が研ぎ澄まされていればいるほど気持ちいいはずです。「気持ちいいな」と風を感じている時、イチロー選手は詳細に渡って風から情報を取っているのでしょう。

それがイチロー選手の集中力の凄さなのだと思いました。

僕はミツさんの脳の波動を転写してもらいました。それからは今までにない右脳が活性化された感覚があり、頭が常に張っています。「ミツさんはいつもこういう状態で過ごしているんだな」と思いました。それをミツさん自身は気づくことはないでしょう。

ミツさんの右脳は常に活性化されているので、本人にとってそれはごく当たり前の状態なのです。

⑭ ガイドに応える

4日目の夜は「アセンション」について話しました。

僕はあまりよく分かりませんが、アセンションについては船井幸雄氏の本から「意識の次元上昇」だと理解しています。ミツさんは望む人全員が知覚の拡大をして欲しいと思っています。そして、その能力を何に使うのかを考えています。いつも言うのは、

「1人で宇宙旅行してもすぐ飽きますよ。これを何に使うかですよね」

ということです。そして僕はと言うと、人工的な知覚の拡大でビジョンが「見える人」と「見えない人」の決定的な違いが分かりました。それはスピリチュアルの世界では理解されないことかもしれませんが、見えないには必ず本人に理由があるのです。誰の責任でもありません。

僕はいつかビジョンが見える日を信じて努力をしてきました。

僕の場合、たまたま自分でヘミシンクのワークショップをたくさん受けることができる環境を作ることができたのでいいですが、大半の方は思い切ってまとまった休みを取って、意を決してワークショップに来るのだと思います。

また、ご結婚されている方においては、家族の了解を得て大金を払って来るのですから、結果を出さないで家に帰る訳にはいきません。大金を払って「何も体験できなかった」では、２度と来れないかも知れないからです。

全員がビジョンを見えるようになれば、ヘミシンクを実践する人やモンロー研究所やその代理店のワークショップへの参加者はもっと増えるはずです。１人ひとりが確実な体験ができるのであれば、どんな啓蒙活動よりも一気に多くの人の意識をシフトチェンジできるのではないでしょうか。

今では僕は「見えない学び」なんてないと思っています。

ミツさんがいつも僕のガイドを通してビジョンの見方や見えない理由を教えてくれるからです。ミツさんに脳の工事を頼んだのも僕のガイドでした。

また、ミツさんはモンロー研究所のプログラムに参加中、参加者のガイド同士が立ち話をしている場面を見ました。

お互いの情報交換や相談をしていたそうです。ガイドが忙しそうに走っているのも見ています。ガイドとはそういう存在なのです。それを知ってしまったら、「ガイドの期待にどうにかして応えたい」と思うのはごく自然な流れの感情です。

⑮ アセンションへの役割

４日目の夜はアセンションについて、ヘミシンクのフォーカスモデルを中心にして話しました。

そのモデルで考えると、フォーカス２２からフォーカス２６までの領域にあるすべての「信念」を救出したら否が応でもアセンションするのだと思います。

例えば僕の囚われている過去世や未来世、側面、信念をすべて救出したら、僕はアセンションできるのだと思います。しかし、ここで言う「自分」の定義が曖昧で、どこからどこまでを救出すればいいか分からないし、考えただけでも大変な作業だと思いました。

そこであることに気がつきました。

それは、「フォーカス２２からフォーカス２６の領域自体を救出してしまえばいいのではないか」ということです。

もともとフォーカスレベルは、ロバート・モンローが非物質界を理解しやすくするために便宜上付けた番号だと思います。逆にその番号を利用してそこに存在する「信念」に焦点を当てて、救出してしまえばいいと思ったのです。

ミツさんが初めての救出活動で４００人もの人を救出できたのは、その「意図する力」が強力だからです。

後は「どういうことを意図するか」が大事で、その意図した「信念」の中に含まれることはすべて操れると思うのです。これを思いついた時アキラさんは笑っていましたが、「フォーカスレベルなんてないんですよ」と言ったアキラさんのお陰で出てきた発想でした。

「信念」とは「思考のかたまり」がビジョンとして分かりやすく映像化されたものだと考えています。

だからいつもは「誰かを救出しよう」と考えているのを、例えば「フォーカス２４の領域に存在する信念をすべて救出しよう」と意図するだけでできるのではないかと思いました。

僕にやれと言われても、「できるかなぁ」と思ってしまうのでできないのが現状ですが、ミツさんは「できると思いますよ」と言っていました。それがミツさんです。しかしあまりにも大きな仕事であるので、ちょっと心配にもなりました。

救出活動は推奨されることなのでモンロー研究所のプログラムで積極的に行なっていますが、いくら救出活動がうまいといってもすべて救出してしまったらやりすぎだと思ったのです。

そんな議論をしているうちに、見かねたアキラさんが「どうでもいいですよ。どうせみんな死ぬんですよ」と言いました。「それもそうだ」ということで「救出活動をしよう」ということになり、明け方に意気込んで寝たのでした。

⑯ 今を生きる

５日目は誰かの「おーい。おーい」という声で起きました。

見るとＨさんが部屋にいます。何事かと驚くと、午前のセッションが始まる１０分前でした。僕らの部屋の誰も朝食に来ていなかったので寝ていると思い、起こしに来てくれたのです。

ミツさんを起こした後、アキラさんも起こしに行きました。

驚いたのは、アキラさんの寝姿があまりにも美しいことでした。布団は最初から掛けていない様子で、高い枕に頭を乗せ、手を胸の上で組んでいました。まるでツタンカーメンのような寝姿に絶句したのを憶えています。

午前中は『サイレント・モーニング』という会話をしないで過ごす時間でした。

その間に自分自身を内観し、いろいろな気付きを得るのです。セッションは『癒し再生センターへの訪問』、『サードリトリーバル（3回目の救出活動）』、『バイブフロー』を通しで聞くのですが、部屋に戻ったと同時に話し始めてしまいました。

ミツさんと2人で部屋にこもって、ミツさんの「役割」について話しました。

今、日本は江原さんを始めとする霊能者のおかげでスピリチュアル・ブーム、良くも悪くも半数近くの人が例えば過去世について「あるんじゃないか」と思っているのではないでしょうか。非物質の世界を理解しはじめることは人々の意識上昇にとってとても重要なことではあると思うのですが、スピリチュアルの世界を知ることによって苦しんでいる人がいるのも事実だと思います。

例えばある人が過去世でお金持ちだったために、今世ではお金について学ぶため貧乏な一生を過ごすという設定をして生まれて来たとします。

自分の過去世を知ってその人が「今はお金じゃない大事なことを学んでいる」と思えればいいのですが、お金持ちになりたいのに「学び」として「自分は物質的に豊かな暮らしはできないんだ」と悲観してしまったらかわいそうです。

人は「学び」のために生まれ変わりを繰り返すのだとしたら、たしかに貧乏を学ぶために生まれ変わる人もいるかも知れません。しかし本人がお金持ちになりたいと思って、そのための行動を起こせばなれると思うのです。絶対なれない、ということはないのです。それを「学び」として受け入れて諦めてしまったら、生きていてこんなに辛いことはないと思います。

未来は自分の手で切り拓くものです。

アキラさんは「過去世なんて関係ない」と言っていました。

いろいろな瞬間、人生の連鎖で「今」があるので、「関係ある」とは思います。でもそれを認めた上で「関係ない」と思えれば楽しい人生を送れるのではないでしょうか。

「過去世の因縁」や「学び」は非物質界の真実であって、物質界では気にすることなく生きても大丈夫だと思うのです。だから非物質界の真実を知って落胆する必要はないのです。ミツさんは「大事なのは『今』じゃないですか」と言っていました。

午前中最後の『バイブフロー』は2人ともセッションをしました。

それが終わってランチに行く途中、「フォーカス23消しました？」と聞きました。すると「失敗しました」と言っていました。直接フォーカス23に入ってしまったらしく、その中で領域を圧縮させようと手をいろいろ動かしたそうですがビクともしなかったということで、これにはかなり笑わせてもらいました。

誰にでも失敗はあるということです。

⑰ 宇宙旅行

5日目の午後は『ターゲテッドリトリーバル』から始まりました。

これはある亡くなった人物の名前を頼りに、別の人がメッセージを持ってくるというセッションです。この時、ある試みをしました。ミツさんが体外離脱をして僕とMちゃんの意識体を肉体から引っ張り出してくれるというものです。

これにはとてもワクワクしながらヘッドフォンを付け、横になってセッションに臨みました。

セッションが始まって少しすると体の左半身がゾワゾワしてきました。それはちょうど、肌が鳥肌になっていない鳥肌のようなゾワゾワ感、または低周波の電気治療を施しているようでもありました。

その状態が５分くらい続いた時、目を閉じた暗闇の中に人の「目」が見えるような気がしました。普段誰でも目を閉じるとまぶたの裏に赤とか黒で暗闇が見えると思いますが、その赤や黒のグラジュエーションで「目」が見えたのです。

更に目を閉じたまま眉間にしわを寄せてまぶたの裏を凝視してみると、鼻や口も見えました。これはビジョンとは違います。くっきりとフルカラーになったりすることはなく、あくまで赤や黒のグラジュエーションで見えるのです。

僕はミツさんが「引っ張りに来る」という先入観があるためかも知れないと思い、目を開けたり閉じたり、または体を横に動かしてみたりしましたが、やはり見えました。その後は体のゾワゾワ感に加えて横にグラグラする感覚がありました。

体外離脱の前の体のうねりとは少し違い明らかに人為的な揺れ方で、確実に意識体を引っ張られているのが分かりました。少しして揺れは収まりましたが、ゾワゾワ感は２０分くらいずっとありました。セッションの後、ミツさんから何をやったのか聞きました。

これはミツさんから聞いた話で、僕は認識していませんでした。

まず体外離脱して僕のベッドの横に来た時、ベッドの足元に意識体の「僕」が立っていました。それを僕の肉体に連れ戻し、上から何度も顔を見せ、意識体を引っ張り出しました。

そして僕の意識体と連れてＭちゃんのところへ飛んでいき、ミクロになって体内へと入りました。脳や目の裏の神経を通って左心室を通過し血管を下りると「左折」の看板があり、左足に行くと足首の血管に黒い詰まりがあったので、そこを治しました。

それからミツさんの頭の上からコードを伸ばし、３人を繋ぎました。

場所を映画館に移し、最前列にミツさんが座って目の前に2人の脳の模型を出し、波動を送り続けました。しかし一定以上の高い波動を送ると脳が非物質化してしまったので、調整しながら送りました。

また、ガイドから言われた数字に周波数計を合わせたのですが、後にこの数字が「ブロードマンの脳地図」の番号であることが分かりました。ついでに僕とＭちゃんのチャクラをゴールドにしてくれました。

その後は東京タワー、名古屋のしゃちほこ、法隆寺、ピラミッド、フォーカス３５のＩ・Ｔを見学しに行きました。そして木星を３周し、フォーカス１１９にも行きました。僕もＭちゃんも笑っていました。

セッションが終わってからブリーフィングルームでシェアの時です。

『ターゲテッドリトリーバル』で亡くなった方からのメッセージを伝え合う場で、ミツさんが手を挙げました。僕は「あれだけのことをやった後にどれだけの情報を持って来たのだろう」とじっと話を聞きました。

しかしミツさんがターゲットとした人物の外見以外に得た情報は、「漬物が好き」でした。この情報には、それを知る人物からは「漬物が好きかどうかは分かりません」と言われ、みんな笑っていました。

これからも分かるように、ミツさんは自己の能力を誇示する人ではありません。そういう気にすらならないのだと思いました。

⑱ 信念体系領域の圧縮とビジョンの意味

ミツさんは５日目の『ターゲテッドリトリーバル』でも信念体系領域の消去にトライしました。

今度は下の数字から順番に上がっていって領域が変わる様子を横から見て、フォーカス２２の領域側から両手を広げ「フォーカス２３を持つ」という意図を持ち、一瞬で領域を圧縮しました。すると木製の『フォーカス２３』という看板が足元に転がり落ちました。

そしてビー玉サイズになったフォーカス２３を透明な画鋲ケースに入れ、その要領でフォーカス２４、フォーカス２５も圧縮し、ビー玉にしました。

ミツさんが前を見ると２０メートルくらい先に１０人の宇宙人がいて、その中の１人がこちらに歩いて来ました。そして画鋲ケースをその宇宙人に渡すと拍手をされたのです。

その宇宙人こそ、後にミツさんを全面的にサポートすることになる『医師団』と名乗る知的生命体でした。

次のセッションは『フリーフロー・フォーカス２７』でした。

ここでも多くのビジョンを見ましたが、初めてビジョンを見た時の感覚とは違いました。どちらかというと妄想でイメージしていた時のように、パッとビジョンが思いつくような具合でした。

はっきりとビジョンが見える時は、額に意識を集中させて暗闇を見つめていると「何か」が見えてくるような気がし、更に集中するとそれがビジョンになります。「こんな感じかなぁ、あんな感じかなぁ」と考えるのではなく、とにかく集中するだけでした。

そのことをセッション後にミツさんに話しました。すると

「冷静な交信をして下さい。すぐ感情が動いてしまうので、考えないで流れに任せるんですよ」

と言われました。僕は妄想をする時にたくさんのビジョンを見ます。だんだん見えてくるビジョンではなく、いきなりフルカラーで出来上がっているビジョンですが、すぐ消えてしまうので写真を見ているようです。

「たくさんのパッパッパッというビジョンは受信機がキャッチしているんです。最初は意味なんて分からなくていいんです。まったく意味なくてもいいんですよ。ビジョンの解釈は後からでいいんです。気づいたら本当にすぐですよ」

と教えてくれました。

今回のセッションでバスルームが見えた気がしました。でも家のバスルームだったので妄想として消去してしまったのです。

「ガイドがたくさんのビジョンを流して、それを受信機がキャッチしているんですよ。例えば『水』を伝えたい時に分かりやすく風呂場を見せるんですよ。家の風呂場でもカットしないで見ているとパッとビジョンをすり替えて『水』のシーンに変わりますから」。

ガイドとは自分自身です。

だから僕がどんなビジョンだったら親しみやすいか分かっているのです。するとそれまで妄想だと思っていたものがビジョンの始まりであると思えるようになりました。今までは「これは妄想だ」と片付けていたビジョンでも、自分が見ているということはガイドも見ているのでカットするべきではないのです。

それについては

「まだまだ疑いが強いんですよ。ビジョンに質問して下さい。思考は会話ですよ。気付けばたくさん会話しているんです」

と教えてくれました。また、リーボルについてもう一度聞きました。本当に張らなくても危険な目に遭わないのかというこ

とです。

僕のその疑いをよそに、あっさりと

「リーボルなんていらないですよ。信念があるから傷つくんですよ」

と言われました。そして疑いを消すことについては、シェアすることを薦められました。自分の体験を口にすることで、自信がない体験でも「体験した」という認識が深まるのです。

つまり、疑いを消すことが知覚の拡大に繋がるということでした。

⑲ 宇宙から来た医師団

5日目の夕食の時にある人がミツさんに相談をしていました。とても知覚能力が高いと言われている人です。

ある件について「私のガイドはこう言ってるんだけど、ミツさんにはどう見える?」と良い解釈をしていたそうですが、ミツさんが見るとまったく逆のことをその人のガイドが言っていたのです。そのことを遠まわしに伝えると、実はその件の専門家からもミツさんと同じことを言われていたそうです。

その人は専門家からもミツさんからも同じことを言われたので納得していたようですが、知覚能力が高い人でも私的な感情が介入すると冷静な交信は難しいのだと思いました。

その日の夜、気付くとミツさんは1人で大浴場に行っていました。戻ってきてから聞いた話ですが、湯船に浸かっている時

ガラス窓の向こう側に２０人くらいの宇宙人が来たそうです。

そして『医師団』という文字を見せられ、彼らは現代の地球でいう医師であることを伝えられました。

ミツさんは彼らから体の中から繋がるコードのついたペンをもらい、それを使って人の治療をするように言われました。驚くべきことは、その間も誰一人として大浴場に来ることはなかったということです。

その後、Ｍちゃんから「フォーカス２３に行けなかった」と言われました。

するとミツさんも「自分も行ってみましたよ。下から行ったらフォーカス２３になった瞬間に明るくなりました」と言うのです。実は夕食前のセッションでリトリーバルをシェアしている人もいましたが、領域を消したことを知らない何人かの人が「行けなかった」と言っていたのも耳にしています。

５日目は最後の夜だったので、ブリーフィングルームで参加者のみんなが輪になって話をしました。

１人の女性が「今回こうして集まったのは、何か理由があるのですか」とミツさんに聞きました。するとミツさんは「今回始まったときに『渦』を見せられたんですよ」と言い、このライフライン参加者のメンバーが中心になってすることがある、という趣旨の話しをしました。

次に坂本さんが「今回ミツさんの中で分かったことがあればお聞きしたいんですが」と聞きました。

ミツさんは考えるまでもなく、

「一番面白かったのは『時間とか空間がない』ってことなんですよ」

と納得したように静かに語り始めました。アキラさんに信念を崩されたこと、一瞬で宇宙を駆け巡ったこと、そして宇宙人との交信が始まったこと。

坂本さんを含めトレーナーの方も興味深そうに聞いていましたが、ミツさんをよく知らない人の中には疑いの目を持っている人もいました。僕もその人の表情で分かりましたが、真っ直ぐ前を見て話すミツさんも全員に重なることでその疑いがすぐ分かったそうです。しかしまったく気にするようなそぶりはありませんでした。

ブリーフィングルームが閉まって部屋に戻ると、数名の人が部屋に来ていろいろ話ができました。いつも4人だけで話をしていたのでまた違った楽しさがあり、とても素晴らしい時間となりました。

自己主張することはなくても、話の中心はミツさんになります。ミツさんの静かで力強い語り口は、周囲の人を引き込む魅力があります。みんな熱心に聞いていました。結局その日は朝まで話題は尽きることなく、最終日にして初めての徹夜となりました。

⑳ 約束

思えばあっという間の5日間で、最終日の朝となってしまいました。

朝にはミツさんと大浴場に行きました。湯船に浸かりながらミツさんに「本当にありがとうございました」とお礼を言いました。いくら言っても言い尽くせないほどの感謝でしたが、一度だけ言いました。

そしてある約束をしました。

それは「知覚を拡大していき、ミツさんと同じ能力を身につける」のと、「ヘミシンクを聞いてもビジョンが見えない人に情報を公開する」ということです。

まったくセンスのなかった僕がこれから知覚を拡大し続けていったら、人類の意識上昇にとても大きな意味をもたらすことができると思っています。

そしてビジョンが見えない人にはできる限りのことを伝えていくつもりです。見えない理由は様々だと思いますが、「信念」と「疑い」が関係しているのは間違いないでしょう。何よりも、このライフラインでの体験を決して「いい体験ができた」で終わらせないことが大事なのです。

ミツさんはこれから、具体的にどういった活動をしていくのかは分かりません。世界の認識を変えるようなことをする気もしますが、何もしないまま暮らしていきそうな気もします。

いつもドンと構えているので、あまり「自分の考えを広めたい」というようには見えないのです。また、周囲から尊敬されることを心地よく感じる人でもなく、常に自然体なのがミツさんです。

「俺はいつでも大丈夫」

その絶対的な安心感が漲っているのがミツさんなのです。

最後のセッションは『アースコア』でした。

でも徹夜のためあまりに眠すぎたのでミツさんも僕もヘッドフォンも付けず寝ました。リビングではアキラさんが朝刊を読み、セッションをしているのはヒデさんだけでした。

その後身支度をして着替えて集合し、カレンから修了証をもらいました。

トレーナーと参加者全員が円になって座り、1人ひとり挨拶をしました。僕はトレーナーのカレン、坂本さん、ミッツィ、アシスタントのモモさん、ミーさん、そして温かく迎えてくれたみんなに感謝の気持ちしかありませんでしたので、「あり

がとうございました」と言いました。

カレンは今回が初めての来日でしたが、とても楽しめたそうです。ミッツィは実は体調を崩していて、それを見ながらのセミナーでした。

みんなそれぞれの思いがあってここに集まり、感動の大団円でしたが、最後の坂本さんの挨拶が主に『エクスプロレーション２７』と『スターラインズ』の宣伝だったので、僕は一気に感動が冷めてしまいました。

最後に集合写真を撮り、個々に挨拶や写真撮影をしていました。

その時にある女性が「ミッツィの後ろに観音様がいる！」と指をさして言いました。ミッツィの笑顔はとても美しくキラキラしていて、高貴さを感じました。これは、と思いミツさんに「観音様が見えますか」と聞くと、「そんなのいないよ」と笑っていました。

これはどちらの知覚能力が優れているとか、どちらが正しいのかという訳ではなく、「信念の違いによって知覚するものが違う」のだと思いました。非物質界の知覚は人それぞれだと改めて思ったのです。

そして全体の解散をしました。

アキラさんはセミナー後に引越しの予定があるらしく、電話番号も住所も交換できませんでした。「絶対連絡をください」と自分の連絡先を紙に書いて渡しましたが、「セミナーに出るのは今回が最後」というアキラさんから連絡が来るかどうかは分かりません。

ヒデさんは大阪にいて連絡を取りやすいこともあり、今後も連絡を取り合う約束をしました。ヒデさんにとっても今回のセミナーは新しい発見がいくつかあり、とても有意義な時間だったようでした。

そしてミツさんが

「『覚醒ルーム』みんなでまた集まって語りましょう」

と言ってくれました。アキラさん、ミツさん、ヒデさん、そして僕にとって今回のセミナーは素晴らしい仲間に出会えた貴重な時間でした。この４人でなければできないことがたくさんありました。

自分が変わる瞬間を温かく見ていてくれた方々には本当に感謝しています。本当にありがとうございました。

覚醒への道標を示してくれたミツさん、本当にありがとうございました。

そして最後までこの『ライフライン体験記』を読んでくださった方々、本当にありがとうございました。

心から感謝致します。